

第2次米子市まちづくりビジョン 実施状況の評価(令和7年度)

資料2-6

<6 スポーツ健康まちづくり>

○評価の集計

A+	A	B	C	総数
0	3	1	0	4

(参考)評価の定義	
評価	定義
A+	取組の狙いを上回る顕著な成果が得られているもの
A	計画に基づき、着実に進捗しているもの
B	目標達成に向けた途上にあり、継続的な取組やフォローを要するもの
C	進捗が大きく遅れており、改善や見直しが必要なもの

○数値目標

指標	単位	現状値(R5)	実績値					目標値(R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
① 外来医療費における生活習慣病に関する割合	%	23.0	22.5					19.0
② 初めて介護認定された方の平均年齢	歳	82.26	82.29					83.00

○評価の詳細

まちづくりの基本方向	計画目標(主な取組)		評価					参考指標				評価理由 (主要事業等から抜粋)	今後の取組方針 (主要事業等から抜粋)
			R7	R8	R9	R10	R11	指標	単位	本年度 数値	目標値 (時期)		
6-1 すべての人がスポーツに親しむことのできる環境づくり	①	スポーツに親しむ機会の充実	A					①少年スポーツ教室延べ参加者数 ②少年スポーツ大会参加者数 ③市主催大会参加者数 ④学校体育施設の開放による利用者数	①人 ②人 ③人 ④人	①13,509 ②501 ③1,309 ④593,778	①12,000(R8年度) ②650(R8年度) ③1,800(R8年度) ④—	【障がい者スポーツ活動の充実】 ・引き続きユニバーサルスポーツの大会開催や普及事業に取り組む。 【米子アリーナの整備促進】 ・工期延長後の竣工予定時期であるR9年6月末に向け、PFI事業者、鳥取県、庁内関係部署等の関係者と緊密に連携しながら、事業計画に沿った施工内容の確認や地元住民等との調整を行ったうえで、事業を進捗させていく。 ・米子アリーナ新築工事と工程や現場の調整を図りながら、米子アリーナ非常用発電設備及び防災倉庫設置に係る工事の進捗を図る。	【障がい者スポーツ活動の充実】 ・引き続きユニバーサルスポーツの大会開催や普及事業に取り組む。 【米子アリーナの整備促進】 ・工期延長後の竣工予定時期であるR9年6月末に向け、PFI事業者、鳥取県、庁内関係部署等の関係者と緊密に連携しながら、事業計画に沿った施工内容の確認や地元住民等との調整を行ったうえで、事業を進捗させていく。 ・米子アリーナ新築工事と工程や現場の調整を図りながら、米子アリーナ非常用発電設備及び防災倉庫設置に係る工事の進捗を図る。
	②	スポーツを楽しむ環境の整備											
6-2 スポーツを通じた地域の活性化	①	スポーツツーリズム等の推進	A									【ワールドマスターズゲームズ等各種大会の開催支援】 ・市実行委員会総会を開き大会開催の準備を進めた。 【スポーツ関連事業者等との連携によるまちづくりの推進】 ・民間事業者と連携し親子運動教室、ラグビー教室等を実施した。 ・米子市民球場においてドリームベースボール(宝くじ助成事業)を開催したほか、市内において実業団や大学の合宿が行われた。 ・デフリンピック2025に出場した地元ゆかり選手への支援を実施した。	【ワールドマスターズゲームズ等各種大会の開催支援】 ・R9年のワールドマスターズゲームズ開催に向けて県や競技団体等と連携して準備を進める。 【スポーツ関連事業者等との連携によるまちづくりの推進】 ・引き続きとっとりコンベンションビューロー等関係機関と連携した合宿誘致活動を実施するとともに、米子アリーナ整備後においてはより積極的にスポーツ大会・合宿の誘致活動を行うよう準備を進める。 ・引き続きオリンピック等に出場する地元ゆかり選手を支援する。
	②	スポーツを通じた地域活性化											
6-3 生活習慣病予防の推進	①	健診受診者の拡大	B					特定保健指導実施率(データヘルス計画)	%	28.3	60(R11) ※国の目標値	【健診受診者の拡大】 ・医療機関や保険会社、関連団体等と連携し、講演会実施や情報発信に努め、知識の普及や受診勧奨を図った。 【生活習慣の周知・啓発】 ・がん啓発イベントでの指導と実践、広報よなご、ホームページ、保健センターでの展示、地区保健師だより等を通して、働く世代を含め、幅広い世代に向けて運動習慣の重要性について周知啓発を行った。	【健診受診者の拡大】 ・健康無関心期、関心期の層への啓発の継続、国保連合会等と連携したイベント、事業実施、受診勧奨はがき送付等による一層の受診者拡大に取り組む。 【生活習慣の周知・啓発】 ・広報やホームページ等、随時機会を活用して、働く世代を含め、幅広い年代への周知啓発に継続して取り組む。また、地域の健康づくり組織である地区保健推進員をはじめ、関係団体と協力して行う。
	②	特定保健指導対象者に対する生活習慣の改善にかかる支援											
	③	より良い生活習慣についての周知・啓発											
6-4 介護予防・フレイル対策の推進	①	フレイルの早期発見とフレイル予防	A					①フレイル度チェック実施人数 ②実践教室参加者数 ③リモート運動体験参加人数	①人 ②人 ③人	①16,505 ②182 ③7,673	①17,500(R7) ②700(R7) ③4,600(R7)	【フレイル度チェックと予防の実践】 ・フレイル度チェック実施人数及び実践教室参加者数について、目標を達成することはできなかったものの、プレフレイル・フレイル該当者を対象に、3ヶ月間実施した週1回の実践教室において、参加者の筋力、口腔、栄養、認知について6～7割の維持または改善が認められた。 【介護予防に係る多様なメニューの提供】 ・米子市で実施しているフレイル予防事業を身近な会場でも参加できる環境づくりとして、公民館等でリモート運動体験を実施した。参加人数は前年度より増加し、目標を上回る実績となった。 ・地域での健康づくりを推進するサポーターの活動支援を実施し、フレイル予防を推進する人材の育成を行なったことで、介護施設等やフレイル予防の場におけるボランティア数は前年度より増加した。	【フレイル度チェックと予防の実践】 ・フレイル度チェックの実施期間をより長く確保するため、送付時期の見直しを行う。加えて、送付時期に合わせた広報を行うなど効果的な周知啓発に努めるとともに、フレイル予防アプリでの回答を推進する。 【介護予防に係る多様なメニューの提供】 ・リモート運動体験の会場として、公民館だけでなく自治会集会所や民間事業所等にも拡げ、参加できる環境を引き続き整備する。 ・地域サポーターの名称を「地域いきいき応援団」に変更し、役割にネグトレの普及及びフレイル予防事業の推進を加え、フレイル予防を推進していく人材の確保及び育成を行う。
	②	介護予防につながる多様な事業メニューの提供											